

## 第 67 回日本 PTA 全国研究大会 兵庫大会 に参加して

富士市 PTA 連絡協議会  
会長 清 淳也

今年も日本 PTA 全国研究大会に参加させていただきました。

今年は8月の23日(金)と24日(土)の2日間で、兵庫の地で開催されました。

兵庫県といえば、1995年に発生した阪神・淡路大震災で多くの尊い命が奪われた地です。このことから、兵庫県では、子どもたちの大切な「いのち」を守るため、家庭教育の充実と共に地域コミュニティの活性化がさらに図られ、学校教育を支えている取り組みがされているそうです。私たちも、様々な環境から、子どもたちの大切な「いのち」を守り、つないでいくことについて参加者と共に考える機会となりました。

今回の大会スローガンは、『つなげよう「いのち」のバトン 次世代を生き抜く子どもたちへ ～地域とともに育む力 兵庫から～』ということからも、学校教育を支えている兵庫県の取り組みが、スローガンにも反映されていました。

社会の急激な変化の中、スマホやインターネットなどの普及により便利で豊かになった反面、地域社会との関りが希薄化するなど、子どもたちの成長に大きな影響を及ぼしていると考えられます。そして、いじめや虐待などが社会問題となり、今まさに社会教育の担い手としてのPTAの在り方が問われていると言えます。このことを踏まえて、兵庫県では、家庭の教育力の向上と地域が支える学校づくりの充実をめざしたPTAを核とした地域住民(C:地域コミュニティ)の参画と協働による「PTA活動」を展開しているそうです。

家庭・学校・地域が連携を強め、「いのち」の大切さを、我々保護者自らが再確認し、次世代を担う子どもたちへつなげていくことが、PTAの役割に一層求められていると思います。

このように感じるとともに、昨年の新潟大会の分科会の研究課題だった「いじめ」の問題についてさらに知識を深めていきたいと思い、今回の分科会も、「いじめ」問題について研究課題としている分科会を選択させていただきました。

いじめについて研究課題は、日本PTA全国協議会担当の特別第1分科会で、姫路市の姫路市文化センター大ホールにて行われました。

上越教育大学大学院教授の高橋知己先生が、講演のみならず、大学生、大学院生、教職員に行われた「いじめを早期発見しにくいのはなぜか？」という問いを実際に会場でも行い、いじめ防止のために、どのように発見していけばいいのかを考えていきました。

この分科会において把握されていた現状と課題は以下の通りです。

子どもを取り巻く環境は、ネットやSNSの普及によって大きく変化しました。これらはコミュニケーションツールとして便利になった反面、公私の境界が曖昧になり、心を休め

る場所や時間を確保しづらくなりました。いじめという問題を考えるとき、この確保しづらくなった心の平和・ストレスの回避が大変重要であって、リスクマネジメントの観点からも、子どもの些細な変化をとらえ、「いじめ」を未然に防ぐことが大切であることを再確認しました。

当事者のみならず、聴衆、傍観者としてみた心理状況や、いじめにつなげないために家庭・学校・地域でできること、多様化するいじめの芽をつみとるためにできること等を討議の視点として分科会が進められました。

そして、子どもたちのために自分たちが考え、自分たちが取り組むべきローカル（個別的）な実践方法を生み出していかなければならないことの大切さを教えていただきました。

今回の分科会のみならず過去の分科会で知り、感じた今の「いじめ」の特性について、今後も十分に注意していきたいと思いました。特に私にとっては、今年度は富士市のいじめ問題対策連絡協議会の委員をさせていただいているので、この分科会で勉強させていただいた意義は大変大きいものでした。

2日目の全大会は、神戸市のワールド記念ホールで行われました。

歓迎アトラクションでは、宝塚 OG レビューショーが行われました。地元、宝塚の華やかなショーで全国から来た PTA の皆さんを歓迎してくださいました。

記念講演はメンタリストとして各種メディアにも取り上げられているメンタリストの DaiGo 氏でした。彼の著書の中にも「子どもを変えようとするのではなく保護者である自分自身を変える。その姿を見せることで、その意志力が子供に感染する。こんな子供になってほしいと願うなら、まずは自分がチャレンジを！」と説いていました。DaiGo 氏も子供のころに 8 年間もいじめにあっていて、いじめから守ってくれる人を待っていたそうです。

他と全く違うことを異質と考える十代の皆さんに、そもそも同じであることのほうが不自然な状態であることを理解してもらい、いじめを排除するには、大人が作る社会制度・学校規則を再考すべき時代になってきていると思いました。



(第1日目 分科会にて)



(第2日目 全大会にて)